

# 銅・アルミ

## 市況見通し

### 3月

銅

った。

1月の伸銅品生産は同6・2%減の4万6600トで、うち国内が同5%減、輸出が25580トで、13カ月連続のマイナス、2月連続で6万トを割

を下回った。ただ、中国向けを中心に昨秋以降、輸出平均単価は再上昇しており、2023年も上昇基調で始まった。

2月の電気銅建値は、月初の126万円から129万円へと高値安定だった。ただ、中国コロナ規制の影響によるスマホ需要低迷から生産が減少、流通

点からLME銅需要は回復が期待できるだろう。

アルミ輸出は、中国向けや内安を受けて新地金・アルミスクラップが増加した。

アルミ輸入は、内需回復や内安からアルミスクラップが増加した。

# 橋本アルミ取締役

## 橋本 健一郎氏レポート



1月の銅スクラップ輸出量は昨年8月以来の2万ト割れ、前年同月比では15・5%減少し2カ月続けてのマイナスとなった。主力の中国、マレーシア向け輸出量は前年同月実績

1月の銅輸入は、電気銅が同8%減の4万4320ト、銅スクラップが同15・5%減の1万5502ト。

2月の銅輸入は、電気銅が同56・4%減の130ト、銅スクラップが同130ト、銅スクラップ

1月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同12・9%減の12万1793トで10カ月連続のマイナスだった。生産量は板類が同17・2%減の7万1625ト、押出類が同5・9%減の5万168トだった。

1月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同3・2%減の5万3696ト(2カ月連続のマイナス)。出荷は同7・3%減の

前月に引き続き欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2300(2500)ドルとやや下落。流通(二次問屋)の在庫および入荷は、自動車生産・住宅着工ともに回復基調にあるものの少ない見通し。

### 3月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	8500~9500ドル	強い
電気銅建値	120~137万円	強い
為替(1ドル)	135~140円 (1カ月間TTM)	円安

### LME銅・為替予想

今月は「米の金融政策」「中国景気回復の動向」に左右される。米国の金融政策は、年明け以降の強気な雇用統計結果およびサプライマネジメント協会(IISM)製造業景況感指数の仕入れ価格指数が前月から上昇しインフレ圧力の強さを示

1月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同3・2%減の5万3696ト(2カ月連続のマイナス)。出荷は同7・3%減の

1月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同3・2%減の5万3696ト(2カ月連続のマイナス)。出荷は同7・3%減の

### 3月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2300~2500ドル (現物後場買い)	横ばい
スクラップ	プラス10円 (前月最終価格より)	横ばい

需要面は世界的なコロナ政策の緩和により今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

### 銅スクラップ景況予想

2月の電気銅建値は、月初の126万円から129万円へと高値安定だった。ただ、中国コロナ規制の影響によるスマホ需要低迷から生産が減少、流通点からLME銅需要は回復が期待できるだろう。

### アルミ

アルミ輸出は、中国向けや内安を受けて新地金・アルミスクラップが増加した。

### アルミスクラップ景況予想